

クリタ株主通信

# 株主の皆様へ

2014年3月期 2013.4.1 ~ 2014.3.31

## 【目次】

企業理念・企業ビジョン・クリタの特長	1
2014年3月期 決算ハイライト	2
トップインタビュー	3
クリタ教室	5
トピックス	7
あなたとつながるクリタ	9
2014年3月期 連結業績のご報告	11
会社情報	13
クリタからのご案内	14
株式情報・株主メモ	15

# “水”を究め、自然と人間が 調和した 豊かな環境を創造する

水の本質を深く、広く追究することによって、  
水の新しい機能、価値を生み出し、  
限りある水を最大限有効活用することにより、  
社会に貢献していきます。

# 水と環境の 先進的マネジメント企業

クリタグループは  
「水のマネジメント」をさらに進化させ、  
限られた水資源を有効活用する  
「先進的マネジメント」の実現をめざします。

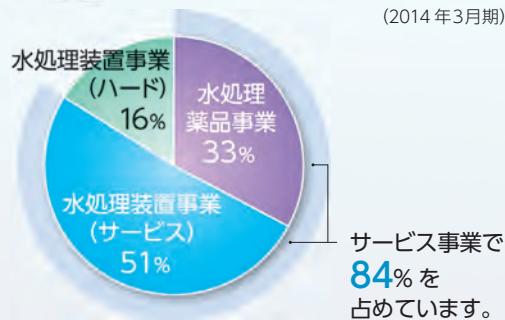
## クリタの特長

- 「水と環境」の分野において、3つの機能を  
バランスよく併せ持つのはクリタだけです。



- 収益性が高く安定的なサービス事業の比率が  
80%以上を占めています。

(2014年3月期)



- 安定配当の継続を基本方針とし、  
配当の増額に努めていきます。

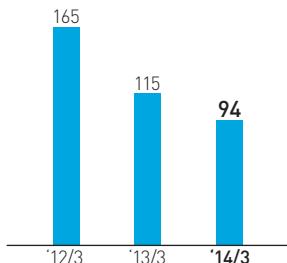
### ■ 1株当たり配当金(年間)の推移



連結業績等

※グラフの金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

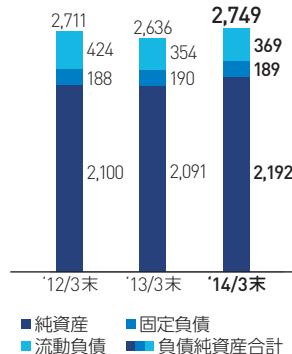
当期純利益 (億円)



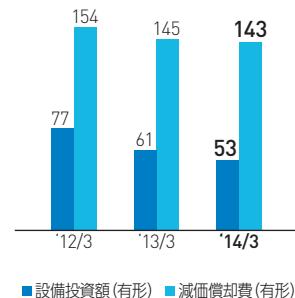
資産 (億円)



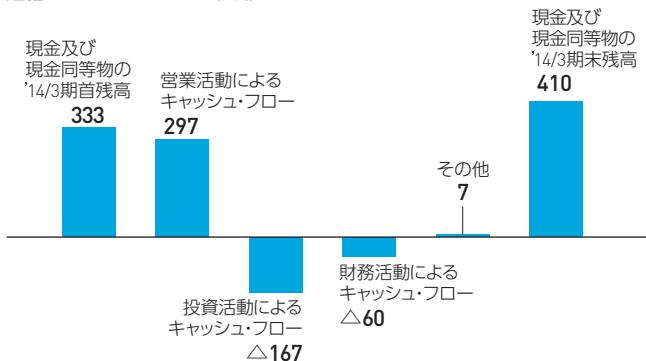
負債・純資産 (億円)



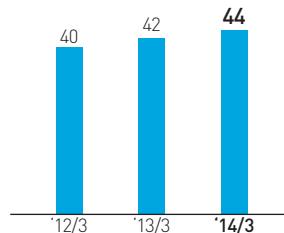
設備投資額 (有形)・減価償却費 (有形) (億円)



連結キャッシュ・フロー (億円)



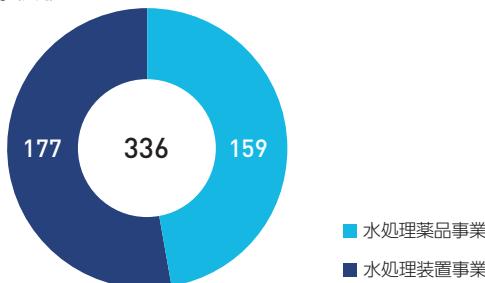
1株当たり配当金 (年間) (円)



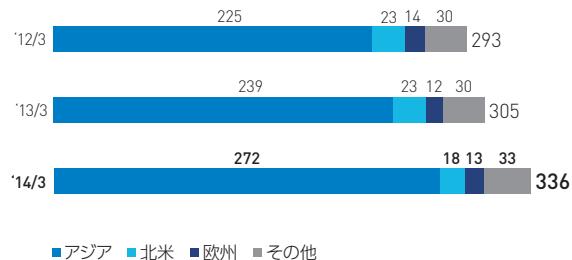
海外事業 (事業別・地域別売上高)

※グラフの金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

事業別 (億円)



地域別 (億円)



株主の皆様には、  
平素より格別のご高配を賜り、  
厚くお礼申しあげます。  
2014年3月期の業績などに関する  
株主の皆様のご質問にお答えいたします。



代表取締役社長

中井 稔之

**Q1** 2014年3月期の連結業績は、  
前期と比較し減収減益となりました。  
この結果に対する評価を聞かせてください。

当期における当社グループの業績は大変厳しいものとなりました。事業環境としては、国内経済は、日本銀行の量的・質的金融緩和や政府の緊急経済対策により企業業績が急速に回復したものの、製造業の生産活動が年度後半まで前年を下回る動きとなり、設備投資も力強さを欠いたまま推移しました。一方、世界経済は、堅調な米国景気に支えられ緩やかに回復しました。欧州経済も底入れし、中国をはじめとする新興国経済も不安定さを抱えつつも概ね堅調でした。

このような中、当社グループにおいては国内事業が、主要なお客様である製造業の低調な工場操業度と設備投資の影響を受け、減収減益となりました。海外事業も、東南アジア、東アジアの水処理需要の拡大や円高修正により売

上高は拡大したものの、電子産業分野における価格競争激化や不採算案件の発生により損失を計上しました。

## 連結業績ハイライト (億円) ※金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

	当期 2013年4月1日～ 2014年3月31日	前期比	前期 2012年4月1日～ 2013年3月31日
受注高	1,735	7.1%減	1,867
売上高	1,781	1.1%減	1,801
営業利益	149	29.1%減	210
経常利益	161	27.1%減	220
当期純利益	94	18.5%減	115
1株当たり配当金	44円	2円増	42円

## Q2 | 来期(2015年3月期)の見通しについて聞かせてください。

国内経済は円安効果の一巡や消費税増税後の景気減速が予想されるものの、年央以降は緩やかな回復に向かうと思われれます。製造業の設備投資に関しては、生産拠点の新設・拡張は少ないものの、生産効率改善や老朽化対策のための投資が期待されます。

また、東アジア・東南アジア地域においては、堅調な経済成長を背景に生産拠点の新設・拡張が見込め、生産効率の向上、環境負荷低減に関わる水処理需要が引き続き増大するものと思われれます。

このような状況の下で当社グループは、成長する地域と市場を見極め経営資源をシフトするとともに、各地域や市場の特性を踏まえ、より付加価値の高い商品・サービスを提供することにより、海外事業の着実な拡大を図ります。

## Q3 | クリタグループが今後、取り組むべき課題とその解決に向けた施策について聞かせてください。

当社グループは、2012年4月にスタートした3カ年の中期経営計画「TA-14 (Take Action 2014)」において、グループの強みである水処理に関わる総合力を結集し、国際競争を勝ち抜く企業グループへの進化と飛躍的な成長の実現をめざしています。しかし、この2年間は厳しい事業環境の中で減収減益が続き、成長を実現することができていません。

当社グループが取り組むべき課題の第一は、低下した収益力を早期に回復することです。収益力低下の要因は、市場環境の悪化、競争激化による販売価格・販売数量の低下、工事損失や追加コストの発生などです。これに対しては、国内外の成長する市場を見極め、より付加価値が高

く価格競争力のある商品・サービスの提供を図っていきます。また、水処理装置事業においては、営業部門と生産部門の連携を一層強化することにより、原価率の低減と追加コストの発生防止に努めます。

取り組むべき課題の第二は、当社グループの商品・サービスの競争力を高めるための総合力の発揮です。環境負荷低減、生産性向上といったお客様の課題に対して、当社グループならではのソリューションを提供していきます。

取り組むべき課題の第三は、グローバル事業の拡大です。国内市場の縮小が見込まれる中、水処理需要の増大が期待される海外市場において事業拡大を図ります。そのために、各国・地域のニーズに合った商品の開発と市場投入に加え、ナショナルスタッフの育成や経営の現地化を進めていきます。また、東南アジアにおいては、ASEAN地域を一つの経済圏として捉え、海外グループ会社の特長ある機能を相互に活用し、域内における経営の最適化をめざします。さらに、現地企業などとの業務提携を進め、開発・営業・生産体制を強化していきます。

## Q4 | 株主還元について聞かせてください。

当社は、安定配当の継続を基本方針として、事業への投資を勧奨の上、配当の増額に努めています。当期は、期末配当を22円とし、中間配当金22円と合わせ年間で前期比2円増の1株当たり44円とさせていただきました。これにより、10期連続の増配となりました。今後も株主価値の向上をめざし、配当金の増額と資本効率の向上に努めていきます。

株主の皆様には、今後もより一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2014年6月

# クリタ教室

クリタの今後の成長を支える取り組みについて、わかりやすく解説していきます。



## 電子産業工場での一日当たりの水リサイクル量の例



ひとりが一日に使う  
水の量＝

300リットル × 20万人分の節水 = 6万トン  
(お風呂の水1.5杯分)

中規模都市ぐらいの人口

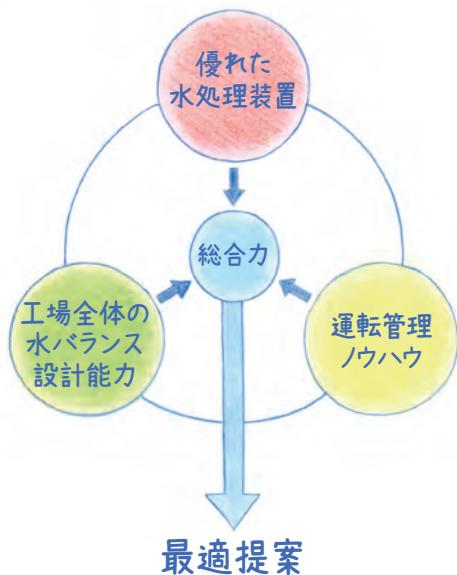


**Q** クリタは産業の水の分野におけるエキスパートということですが、水を大量に使用する工場などではどのような節水方法がありますか？

**A** 家庭における節水と同じように工場内でも、無駄づかいをしないためのいろいろなルールを決めたり、節水型の機器を使ったりして、水の使用量を少なくする取り組みをしていますが、**近年増えているのが、工場が使われた水を周辺の環境に影響を与えないように処理した後、ただ捨てるのではなく、回収して再利用（排水回収）することによって、新たに使う水の量を抑える方法です。**

**Q** 工場で排水回収による節水が増えているのは、どのような理由からですか？

**A** 工場を操業する企業にとって、排水の回収・再利用によって新たに取り入れる水の量を減らすことができれば、**上下水道料金の削減**という経済効果が期待できるとともに、大切な**水資源の保全**にもつながるからです。  
**クリタはこれまでに食品や自動車などさまざまな産業の工場で、数多くの排水回収・再利用のプロジェクトを手掛けてきました。特に電子産業の工場では回収率70～80%という高いレベルでの排水の再利用を実現しており、中には、ほぼ100%の回収ができている液晶パネル工場のようなケースもあります。**



## 日本から世界に広がる



**Q** クリタがそのような多くの実績を持っているのはなぜですか？

**A** クリタは水質や水量が異なる多種多様な排水の処理に対応できる技術に加え、お客様に最適な提案ができる総合力を持つことがこれまでの実績につながっていると考えます。

排水を回収し再び使える水を造るためには、排水に含まれる有機物や無機物を適切に処理するのはもちろんのこと、水処理に用いる薬品や膜・樹脂といったさまざまな部材に加え工場の運転管理にも精通している必要があります。クリタはこれらの技術やノウハウのすべてを保有しており、この基盤の上に数多くのお客様に最適な排水回収システムを提案し実現してきました。

**Q** 排水回収についての展望を教えてください。

**A** 深刻化する地球規模での水不足に対応するために、クリタの排水回収技術は今後さらに幅広い産業分野での活用が期待されます。

このような動きは国内にとどまらず、海外へも広がっています。特に中国をはじめ経済成長の著しい新興国では水資源が不足しがちであり、産業排水の回収・再利用は潜在的な需要が大きいと思われます。

「水は限りある貴重な資源である」という考えのもと、クリタの持つさまざまな商品と技術を融合させ、これからもお客様と共に水資源の有効活用や水環境の保全に取り組んでいきます。

## 当期の主な活動をご紹介します。

クリタグループの、国内・海外での事業活動や社会貢献活動の一部をご紹介します。

### 障がい者雇用促進に向けた新会社 「ウイズ・クリタ株式会社」を設立

障がい者の勤労意欲は急速に高まっています。その雇用環境整備に対応するため、4月1日付で「ウイズ・クリタ株式会社」を設立しました。クリタ開発センター内に本社を置き、従業員11名（うち、障がい者5名）の体制で、5月1日からセンター内の清掃業務などに従事しています。



クリタ開発センター内に本社を置き、従業員11名（うち、障がい者5名）の体制で、5月1日からセンター内の清掃業務などに従事しています。

### クリタ水・環境科学振興財団が タイで研究助成を開始

9月20日、「水と環境」に関連したテーマへの研究助成金の贈呈式がバンコク市内のホテルで開催され、4人の研究助成対象者が研究テーマの概要をプレゼンテーションしました。クリタ水・環境科学振興財団は2013年度からタイでの直接助成事業を開始し、数年後には他国へ助成を拡大することも検討しています。



クリタ水・環境科学振興財団は2013年度からタイでの直接助成事業を開始し、数年後には他国へ助成を拡大することも検討しています。

2013年

4月

5

6

7

8

9月

### ケミカル事業本部で 「Management Development Seminar」 を開催

海外事業会社の管理職層を対象に、マネジメント力・人材育成力などの向上を目的とした「Management Development Seminar」が、9月2日から5日間開催されました。グループの企業理念や事業戦略、仕事に対する姿勢などの理解・共有に重点を置き、テーマに沿った講義や実演実習、意見交換が行われました。



グループの企業理念や事業戦略、仕事に対する姿勢などの理解・共有に重点を置き、テーマに沿った講義や実演実習、意見交換が行われました。

### クリタ蘇州から規格型商品の 東南アジア向け出荷を開始

栗田工業（蘇州）水処理有限公司は水処理装置の規格商品化に取り組み、10月から規格型水処理装置の東南アジア向け出荷を開始しました。コスト削減や工期短縮、高い品質の安定といった価値を提供するため、今回のマレーシアを皮切りに、インドネシア、日本への輸出が計画されています。



高い品質の安定といった価値を提供するため、今回のマレーシアを皮切りに、インドネシア、日本への輸出が計画されています。

## IDA World Congress (10月20～25日) で 逆浸透 (RO) 膜処理薬品を発表

中国・天津市で開催されたIDA World Congress (IDA学会) には多数のメーカーが参加し、約280件の技術発表が行われました。IDA学会は脱塩技術分野で世界最大規模の学会で、2年ごとに開催しているものです。栗田工業は逆浸透 (RO) 膜処理薬品に関する技術発表と商品のブース展示を行い、その技術力や安全性をPRしました。



## 笑顔と楽しさあふれるスポーツイベント、 「スポーツゲームズin厚木&クリタ」開催

3月15日、神奈川県厚木市で「スポーツゲームズin厚木&クリタ」が開催されました。サッカーや野球、テニス、ラグビー



といったスポーツを通して、地域の方々とクリタ社員が触れ合うイベントで、過去最高の250人余りが参加しました。健康を考えるきっかけづくりにも役立っています。



2014年

10月

11

12月

1

2

3月

## セミコン・ジャパン2013に出展・参加

栗田工業は、12月4日から6日にかけて幕張メッセ (千葉県) で開催された「セミコン・ジャパン2013」に出展・参加しました。「工場における運用コスト低減」



をテーマに、お客様の水処理設備を最適化させる改善事例やコスト削減を実現する商品・技術を積極的にPRしました。

## 「S.sensing MA」による 水処理管理サービスを開始

栗田工業は、冷却水系の設備向けに開発した水質分析計「S.sensing MA」を活用した水処理管理サービスを開始しました。本機器により現場でお客様の課題を明らかにし、即日中にその解決を図る提案が可能となりました。また、通信機能により「S.sensing」のシステムネットワークを活用したデータの蓄積と解析が可能です。



株主の皆様の身近な場所にある、クリタグループとの「つながり」に焦点を当てます。

# 飲料・食品産業の水の 総合的ニーズに応える

飲料や食品の製造・加工にはさまざまな工程で大量の水が使われています。クリタは長年培ってきた水処理技術を駆使し、安全面・衛生面の管理、工場全体のコスト削減、環境負荷低減などを通じて飲料・食品産業をサポートしています。

## 安全で衛生的な 製造環境づくりをサポート

人々が直接口にするものを扱う飲料・食品工場において、何よりも優先されるのが安全かつ衛生的な製造環境づくりです。

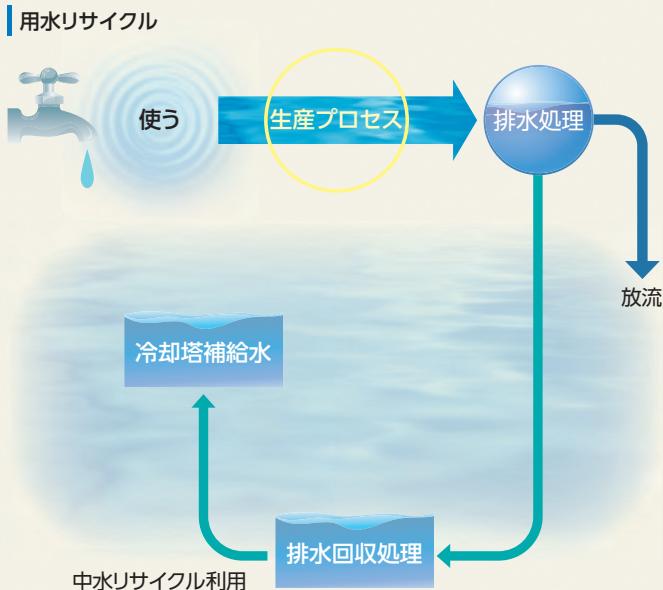


現在、飲料・食品企業の多くが危害要因分析に基づく重要管理点のモニタリングシステムであるHACCP（ハサップ）や食品安全マネジメントシステムの国際規格であるFSSC22000に対応した品質管理を行っています。クリタはこのようなお客様向けに、食品や食品添加物を原料とした水処理薬品を供給しています。この水処理薬品は、原料受入れから製造・検査・出荷までの各工程において品質管理を徹底するとともに、出荷後もトレーサビリティシステムにより検査結果や製品情報などをお客様に開示して、安心と信頼をお届けしています。



## 廃棄物削減など 飲料・食品工場ならではの 悩みにも対応

飲料・食品工場の環境面で問題となるのが、排水処理で大量に発生する余剰汚泥\*です。クリタでは、自然界におけるエコシステムである好気性微生物の食物連鎖をコントロールして、廃棄物となる余剰汚泥を減容化する技術や、余剰汚泥の発生が少ない嫌気性微生物処理技



術などによって、飲料・食品工場の排水処理から生まれる廃棄物の削減に貢献しています。

また、これ以外にも臭気対策として、悪臭成分拡散を防いだり臭気を和らげる薬品など、多種多様な臭いに対して最適な消臭剤を提供しています。

※余剰汚泥：

汚水の浄化により増殖した微生物が濃縮したものを汚泥といい、処理に必要な量以上のは余剰汚泥と呼ばれ、産業廃棄物として処理されます。

## 排水のリサイクルなどで「節水」に貢献

大量の水を使用する飲料・食品工場だけに節水は、さまざまな効果をもたらします。クリタは工場でする水と捨てる水の水量・水質を工程ごとに解析し、水使用量の最適化により効率的な節水策を提案したり、工場で使われた水を処理した後、ただ捨てるのではなく、回収してリサイクルする排水回収技術によっ

て、環境負荷の低減、コスト削減などにも貢献しています。

製造工程における安全性確保から廃棄物の削減、水資源の確保まで、水処理薬品・水処理装置・メンテナンスの技術を駆使したクリタのトータルサポートは、より安全な品質、環境負荷の最小化という、飲料・食品工場に求められる条件をクリアしながら、コスト削減や生産性の向上に寄与しています。

## セグメント別ハイライト

## 水処理薬品事業

売上高 588億円 (前期比 4.9%増)  
営業利益 80億円 (同 4.6%減)

受注高・売上高については、国内では冷却水薬品、石油精製・石油化学向けプロセス薬品が増加しましたが、ボイラ薬品、紙・パルプ向けプロセス薬品が減少しました。年度後半から顧客工場の操業度は改善したものの、上期の減少の影響により通期でもやや減少となりました。海外では、東南アジアや中国を中心に冷却水薬品、排水処理薬品、逆浸透(RO)膜処理薬品が増加しました。円高是正による為替換算の影響もあり、海外は高い伸びとなりました。

この結果、このセグメントの受注高は前期比6.0%増、売上高も同4.9%増となりました。

利益については、増収効果があったものの、海外事業拡大のための人員の増強や関連費用の増があり販売費及び一般管理費が増加したため、営業利益は同4.6%減となりました。



## 水処理装置事業

売上高 1,193億円 (前期比 3.8%減)  
営業利益 69億円 (同 45.1%減)

受注高・売上高については、国内では電子産業分野における超純水供給事業は概ね計画通りに推移したものの、水処理装置、メンテナンス・サービスはともに低調な設備投資と主要顧客の工場操業度低下により減少しました。一般産業分野では、震災復旧需要の一巡により電力向け水処理装置の売上高が減少しましたが、土壌浄化は増加しました。海外では、東アジアの電子産業向け案件において顧客の設備投資の計画変更や中止があり受注計上の取り消しも発生し、受注高は大幅に減少しました。

この結果、このセグメントの受注高は前期比12.7%減、売上高は同3.8%減となりました。



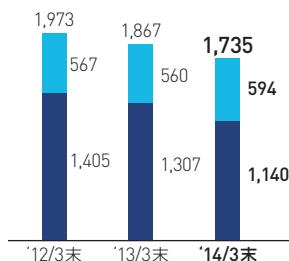
利益については、減収の影響、不採算案件発生による工事損失や追加コスト増大、海外での人員増強による販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は同45.1%減となりました。

## セグメント別業績の推移

※金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

- 水処理薬品事業
- 水処理装置事業

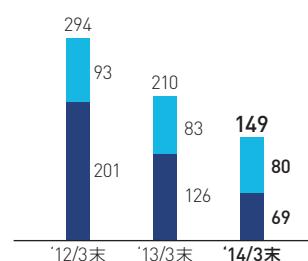
受注高 (億円)



売上高 (億円)



営業利益 (億円)



注) 営業利益の合計は、セグメント間取引消去に伴う調整後で表示しています。

## 連結貸借対照表 (要旨) (単位: 億円)

	当期 (2014年3月31日現在)	前期 (2013年3月31日現在)
<b>【資産の部】</b>		
<b>流動資産</b>	1,625	1,469
現金及び預金	473	430
受取手形	73	61
売掛金	505	553
有価証券	480	340
たな卸資産	58	49
その他	36	36
<b>固定資産</b>	1,124	1,167
有形固定資産	779	868
建物及び構築物 (純額)	217	244
機械装置及び運搬具 (純額)	329	363
その他 (純額)	232	261
無形固定資産	16	16
投資その他の資産	330	283
<b>資産合計</b>	<b>2,749</b>	<b>2,636</b>

**【負債の部】**

	当期 (2014年3月31日現在)	前期 (2013年3月31日現在)
<b>流動負債</b>	369	354
支払手形	19	15
買掛金	170	165
その他	180	174
<b>固定負債</b>	189	190
リース債務	54	60
退職給付引当金	—	108
退職給付に係る負債	114	—
その他	21	22
<b>負債合計</b>	<b>558</b>	<b>545</b>
<b>【純資産の部】</b>		
<b>株主資本</b>	2,100	2,058
その他の包括利益累計額	77	20
少数株主持分	15	12
<b>純資産合計</b>	<b>2,192</b>	<b>2,091</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>2,749</b>	<b>2,636</b>

## 連結損益計算書 (要旨) (単位: 億円)

	当期 (2013年4月1日~ 2014年3月31日)	前期 (2012年4月1日~ 2013年3月31日)
売上高	1,781	1,801
売上原価	1,229	1,210
売上総利益	553	591
販売費及び一般管理費	404	381
営業利益	149	210
営業外収益	14	13
営業外費用	2	3
経常利益	161	220
特別利益	—	16
特別損失	7	39
税金等調整前当期純利益	154	198
法人税等	59	82
少数株主利益	1	1
当期純利益	94	115

※金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

## 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) (単位: 億円)

	当期 (2013年4月1日~ 2014年3月31日)	前期 (2012年4月1日~ 2013年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	297	273
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 167	43
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 60	△ 186
現金及び現金同等物に係る 換算差額	7	5
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	77	135
現金及び現金同等物の期首残高	333	198
現金及び現金同等物の期末残高	410	333

詳細は当社ホームページでご確認ください。

URL <http://ir.kurita.co.jp/>

栗田工業 IR

検索

## 会社概要 (2014年3月31日現在)

商号	栗田工業株式会社 (Kurita Water Industries Ltd.)
本社所在地	東京都中野区中野四丁目10番1号 中野セントラルパークイースト
設立年月日	1949年7月13日
資本金	134億5,075万円
従業員数	1,529名 (連結4,635名)
ホームページアドレス	http://www.kurita.co.jp/

## 取締役および監査役 (2014年6月27日現在)

代表取締役社長	中井 稔之
代表取締役常務	梶井 馨
常務取締役	飯岡 光一
常務取締役	伊藤 潔
取締役	名村 生人
取締役	黒川 洋一
取締役	兒玉 利隆
取締役	山田 義夫
取締役	門田 道也
取締役	中村 清次
監査役	葛生 知明
監査役	林 史郎
監査役 (非常勤)	宇多 民夫

(注) 1. 取締役のうち、中村清次は会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

2. 監査役のうち、葛生知明および宇多民夫は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

## グループネットワーク

### 国内

当社および子会社28社の合計29社で構成されており、全国を網羅する販売・サービス網により、水処理に関する商品・技術・サービスを幅広く提供しています。

### 主な子会社

クリタ・ビルテック株式会社	株式会社クリタス
クリタ・ケミカル北海道株式会社	栗田エンジニアリング株式会社
クリタ・ケミカル関東株式会社	三善工業株式会社
クリタ・ケミカル北陸株式会社	クリテックサービス株式会社
クリタ・ケミカル東海株式会社	サンエイ工業株式会社
クリタ・ケミカル関西株式会社	日本ファイン株式会社
クリタ・ケミカル山陽株式会社	サン化工株式会社
クリタ・ケミカル西日本株式会社	アオイ工業株式会社
クリタ・ケミカル大分株式会社	クリタ明希株式会社
クリタ・ケミカル熊本株式会社	クリタック株式会社
クリタ・ビーエムエス株式会社	ランドソリューション株式会社
クリタ・ケミカル製造株式会社	クリタ分析センター株式会社

### 海外

子会社12社および関連会社1社の合計13社で構成されており、グローバル事業の拡大に向けて世界各地で事業を展開しています。

### 主な子会社・関連会社

クリタ・ド・ブラジルLTD.A.
クリタ・ヨーロッパGmbH
クリタ - GKケミカルCo., Ltd.
クリタ (シンガポール) Pte. Ltd.
P.T.クリタ・インドネシア
韓水Ltd.
クリタ (台湾) Co.,Ltd.
栗田工業 (大連) 有限公司
クリタ・ウォーター (マレーシア) Sdn.Bhd.
栗田工業 (蘇州) 水処理有限公司
栗田超純水設備 (上海) 有限公司
韓水テクニカルサービス Ltd.
クリタ・アメリカ Inc.

本株主通信に関するお問合わせ先 経営企画室 企画部 広報課  
TEL. 03-6743-5007

## テレビCMをリニューアル

今回のテレビCMでは、当社の知名度向上と、水と環境を大切にせる企業イメージの醸成に加えて、視聴者の皆様に事業の内容を知ってもらうことをねらいに制作しています。

以下の番組においてON AIR 中です。

- 栗田工業提供テレビ番組  
「水彩物語」(みずいろものがたり)  
テレビ朝日(関東ローカル) 毎週土曜日 17:25 ~ 17:30、  
BS朝日 毎週土曜日 25:25 ~ 25:30
- 「世界水紀行」  
BS日テレ 毎週水曜日 20:00 ~ 20:54

### 「企業を動かす」篇



### 「自然に還る」篇



## 株主優待制度のご案内

株主の皆様のご支援にお応えするとともに、より多くの皆様にクリタグループを一層ご理解・ご支援いただきたいとの思いから、「株主優待制度」を実施しております。

### 対象株主様

毎年3月31日現在で、当社株式を100株以上ご所有の株主様を対象といたします。

### 優待内容

以下のとおり、ご所有の株式数に応じて、当社子会社のクリタック株式会社が販売しております「水のクリタのうまい水」を贈呈いたします。

- 100株以上～1,000株未満ご所有の株主様 → 1セット(18ℓ)
- 1,000株以上～10,000株未満ご所有の株主様 → 2セット(36ℓ)
- 10,000株以上ご所有の株主様 → 6セット(108ℓ)

### 優待ご案内時期

毎年6月に株主優待のご案内書と申込書をお送りいたします。

### 優待品お届け時期

申込書にお届け先をご記入の上、ご返送ください。受付順にてお届けいたします。

### お問い合わせ先

株主優待事務局 TEL. 03-6743-6907

### 【株主優待品】「水のクリタのうまい水」1セット(18ℓ)の内容



#### フィルムパッケージ入り

そのまま専用パックスタンドにセットして使います。



#### 専用パックスタンド

1セットにつき1個、同梱いたします。



#### 宅配専用商品

1ケースは6パック入り。2ケースを1セットとしてお届けいたします。



## 株式の状況 (2014年3月31日現在)

発行可能株式総数	531,000,000株
発行済株式の総数	119,164,594株
株主数	33,131名

## 大株主 (2014年3月31日現在)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
日本生命保険(相)	6,312,083	5.30
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	5,318,200	4.46
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	4,428,623	3.72
全国共済農業協同組合連合会	2,863,800	2.40
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	2,772,600	2.33
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	2,589,900	2.17
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシー リユーエス タックス エグゼンプテッド ペンション ファンズ	2,573,785	2.16
東京海上日動火災保険(株)	2,500,626	2.10
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE 15PCT TREATY ACCOUNT	2,178,208	1.83
RBC IST 15 PCT LENDING ACCOUNT	2,109,757	1.77

## 所有者別株式分布状況 (2014年3月31日現在)

	持株数* (千株)	持株比率 (%)
金融機関	35,118	29.5
証券会社	775	0.7
その他国内法人	10,329	8.7
外国人	56,654	47.5
個人	16,285	13.7
自己株式	1	0.0

※千株未満を切り捨てて表示

## 株価および出来高の推移



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月
利益配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日 (中間配当を行う場合)	9月30日
基準日	3月31日 (そのほか臨時に必要があるときに あらかじめ公告いたします。)
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人および 特別口座管理機関 (電話照会先)	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目 4番1号 フリーダイヤル 0120-782-031 (受付時間：平日 9:00～17:00)
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目 8番4号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社全国各支店

### 諸手続きお問合わせ先(住所変更、単元未満株式の買取請求、未払配当金の照会等)

- 証券会社の口座に記録された株式の場合  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
ただし、未払配当金の照会については、三井住友信託銀行株式会社(株主名簿管理人)にお申出ください。
- 特別口座に記録された株式の場合  
三井住友信託銀行株式会社(株主名簿管理人および特別口座管理機関)にお申出ください。

### 「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。  
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。



この冊子は、適切に管理された森林由来のFSC®認証紙に、植物油インキを使用して印刷しています。